

「産川へ行ってみよう！」

子どもたちは、4月から産川にかかわる活動をしてきました。産川には、生き物がいたり、きれいな石があったり、みんな産川が大好きです。



しかし！実際に産川へ行き始めて、産川の課題に気づいた子どもたち。



「産川のためにできること」

産川をきれいにする方法について話し合っていたところで出会った民話「小泉小太郎」。劇を通して、**産川についてもっと知ってもらいたい**という思いになりました。

単元名

きれいな産川を取りもどせ！
4-2が全力で送る

こいずみこたろう げき
「小泉小太郎」劇



どうして「産川」っていうの？

川辺小学校のすぐそばを流れる産川

その名前の由来を知った子どもたちは、「へえ～！！」、「そうだったのかあ！」と民話に興味を持ち始め、劇を通して民話を発信することになりました。



語り手 稲垣勇一さんとの出会い

民話についてより深く知ろうとした子どもたちは、片時も目線をそらさず、民話の世界に引き込まれていました。伝えることの大切さを学んだ子どもたちは、「**多くの人に産川について知ってもらいたい民話をつくる。**」という新たな課題を立てました。



川辺小学校

総合的な学習の時間授業研究部会
研究テーマ：

子どもとともに「知りたい」「やりたい」を追求していく授業



民話「小泉小太郎」とは…

大蛇の化身が子を宿し、流れ着いたのが産川で、小泉小太郎と命名される。大蛇の亡骸が白骨化したものが「蛇骨石」と呼ばれ、今でも産川で拾うことができる。

演劇塾アシスタント

石坂杏子さんにアドバイスをもらって

劇づくりに向け、演劇指導や道具、音響づくりにもアドバイスをもらいながら、活動に取り組みました。



発表を終えて…

【見てもらった人の感想】

・稲垣勇一さんが「生き生きすることを伝えることが大切」と述べ、校長先生が「仲間っていいな」とおっしゃいました。わたしはその感想を聞きながら『生き生き』とどうしてあの子たちはできたのだろう…と考えていました。そこでやっぱりそうだったことが『人と人』です。やっぱり人は人となりがあっていくことで『生き生き』になれる。生きていく希望を見出すことができるのだと感じました。（保護者）

【子どもの感想】

・川辺小の人たちに民話「小泉小太郎」が産川の由来になっていることを伝えられてよかった。

・この活動の思い出は絶対に忘れません。劇の活動で勉強したことを5年生でも生かしたいです。

劇の発表

4学年の2学級、産川で活動する5年生、保護者、講師の方々に向けて発表をしました。また、子どもたちの「多くの人に知ってもらいたい」という願いから、テレビ局にも取材をお願いし、活動について放送してもらいました。

